

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 横浜市立幸ヶ谷小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒221-0051  
神奈川県横浜市神奈川区幸ヶ谷1-1  
E-mail [ma08-miyazaki@city.yokohama.jp](mailto:ma08-miyazaki@city.yokohama.jp)  
Website <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kohgaya/>  
幼児児童生徒数 男子372名 女子341名 合計713名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自分・友だち・社会の幸せをつくる子」を学校理念として、E S Dを持続可能な社会を創るための基本概念と捉え、E S Dの実践を通して、未来の社会における変化の担い手を育成することを目標とした。

具体的には、地域との連携を柱に、①SDGsに係わる活動、②企業とのコラボレーションに係わる活動、③海の豊かさを守ることに係わる学習、④環境教育に係わる学習を行った。

### ① SDGsに係わる活動

6年生の児童が中心となって、自分たちのまちが将来にわたって持続可能であるために、サステイナブルマップを作製する活動を行った。自分たちの活動が、SDGsの11番「持続可能なまちづくり」に該当していることを理解したうえで、サステイナブルマップをツールとしてたくさんのまちの人とかかわり、協働で作業を行った。同じ学校の下級生とつながるために、それぞれのクラスが取り組んでいる総合的な学習の時間における活動を、SDGsの視点で価値付けして、それをもとにお互いを理解し合うことも実践することができた。

## ② 企業とのコラボレーションに係わる活動

6年生との児童が、まちのよさをたくさんの人に知ってもらえるように、地元の企業と一緒に、商品開発を行った活動である。横浜市の教育委員会が主催しているプログラムで、活動のテーマをもとに、子ども達と企業をマッチングして共同で活動ができるようにしてくれるところが大きな特徴である。今回は、「サカタのタネ」が子ども達の思いを込めたクッキーを共同開発してお店のカフェで販売するという機会を提供してくれたので、子ども達は企画会議から販売に至るまで、実際に大人とかかわりながら活動を進めることができた。

## ③ 海の豊かさを守ることに係わる活動

4年生の児童が中心となって、すぐ近くの海の豊かさを守るために様々な活動を行った。どれくらい汚れているかについて実際に水質調査を行ったり、海の環境を維持するためにボランティア活動をしている団体と一緒にごみ拾いをしたりと、自分たちにできることを継続してやり遂げることができた。また、校内で海の様子を観察できるように、財団からの助成金を生かして、大きな海水槽を作り、他の学年の児童にも海の豊かさを守る大切さを伝えていた。

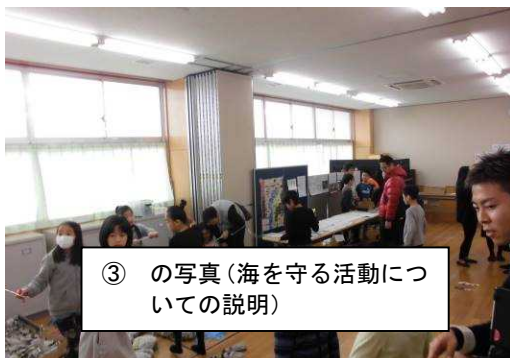
## ④ 環境教育に係わる活動

環境問題を、自分たちの身近な生活の場面で考え、できることから変えていこうと行動に移す活動が見られた。なぜその取り組みを行うことが地球温暖化対策として効果的なのかを、実際のデータをもとに検証・考察している点に説得力があった。また、自分たちの取組を「クールチョイス」という宣言形式を使って第三者に説明し、さらに賛同して署名してもらうことで、目的を同じくした共同体を広げていくことを可能にした。

① の写真(サスティナブルマップ)



② の写真(校内のフェスティバルで説明している様子)



③ の写真(海を守る活動についての説明)



④ の写真(クールチョイスへの賛同を求めている場面)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

朝日新聞で制作している冊子「地球教室 基礎編・応用編」
-----------------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

生活科・総合的な学習の時間を共通教科として、教員全体で校内研究を進めている。目指す子どもの姿（学校教育目標）を「自分 友だち 社会の幸せをつくる子」と設定し、持続可能な未来を創るための変化の担い手を育てようとしている。学校教育目標を具現化するために、SDGs 17の視点でそれぞれのクラスの取組を価値付けした上で、全体組織の中に紐づけしている。普段何気なく取り組んでいる学習活動そのものが、ESDの理念を具現化しようとするユネスコスクールの取組であり、そのような意識を児童も教員ももって行動することで、現実世界の課題に対して、自分なりに考え、対処しようとする力を身に付けられる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESDを教育活動の根底に据えて、校内重点研究の研究テーマもそれに準じたものになっているので、教員の異動が多い公立校であっても、毎年共通認識をもって教育活動に従事することができている。

また、毎年12月に学習発表会が開催され、そこでは地域の方々に、生活科や総合的な学習の時間で学んだ成果を発表することになっている。発表を見たり、ディスカッションに参加したりする地域の方々のESDに対する認識も年々高くなっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

横浜市立幸ヶ谷小学校は、コミュニティスクールであることから、外部の委員と学校の教員で組織される「学校運営協議会」が定期的開催されている。そこでは、学校内部の評価を公表し、それに対して評議委員からの客観的な評価をもらえる仕組みになっている。成果としては、ユネスコスクールとしてのESD的な活動やその価値が、児童にも保護者にも認識されているという点である。課題としては、さらなるユネスコスクール同士のネットワークの強化があげられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESDに関する活動の成果は、学校だより、PTA広報誌、学習発表会(ステップアップフェスティバル)等で定期的に発信されている。また、校内重点研究は常に授業公開されており、他校の教員も自由に参加できる。さらに、今年度は、東京ビックサイトで開催される「エコプロ2017」に、ブース出展して、多くの参観者にメッセージを届け、一緒に問題意識を共有してもらえたので、学校の取組を今まで以上に認知してもらうことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

横浜市教育委員会が中心となって構成されている「横浜市ESDコンソーシアム」では、ESDに関する研修会を複数開催されているが、そこへの教員の参加を通して、交流を深めネットワークを築くことが以前よりもできるようになってきた。また、授業づくりの相談を、関東ESD活動支援センターの職員と行ったり、授業の様子を取材に来てもらってホームページで発信してもらったりするなど、外部と連携しながら活動の幅を広げることができるようになってきた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

同じ神奈川県ユネスコスクール同士では、研究授業後の研究協議会を共同で開催するという会を行うことができた。(横浜市立永田台小学校)また、研究推進委員が、他県のESDコンソーシアムが開催した研究発表会に何度か参加し、そこでいろいろな都道府県からきている教員と交流を深めることができた。お互いの研究成果を交流することで、ネットワークをつなげることはもちろん、自分たちの取組を再認識する機会にもなるので、今後も積極的に他県の研究発表会に参加する予定である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールに加盟したことにより、地域・保護者のサポート組織との連携がとりやすくなった。「幸ヶ谷共育倶楽部」と命名されたこの組織は、登録制になっており、学校からの要望（校外学習の引率、調理実習のサポートなど多岐にわたる）を受けて、協力できる人が来てくださるというシステムである。現在、登録人数は200名を超え、常に地域の方が学校を見守ってくださっている状態である。平成29年度は、その活動が評価されて、文部科学省から表彰された。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も引き続き、学校目標「自分 友だち 社会の幸せをつくる子」の達成を目指し、ESD を基本テーマとして研究を進めていく。これまでの取組の他に、新しい取組にも挑戦していきたい。

【予定している内容】

・生活科・総合的な学習の時間だけでなく、国語科も共通研究教科に指定し、日常からESDを意識してユネスコスクールの理念を達成できるようにする。

・ユネスコスクール間のネットワークの積極的な活用

・横浜市内だけでなく、他県のESDコンソーシアムとの連携

・様々な観点からの学習活動

（海の豊かさを守る活動、地域防災に関する活動、環境問題への取組、社会参画を意識した活動、地域の歴史も踏まえた持続可能な取組）